英語の情報デザイン
——推理小説における誘導の技法

稲　木　昭　子

1. はじめに

話し手が，対話している相手の発話や発話のコンテクストから，相手の考えるべき方向をことばで示して，相手をある状態に導くといういわゆる言語的＜誘導＞に関係する言語情報のデザインの技法を考える。ことばによる誘導は，「あなたのこれまでの発言や会話の流れ等のコンテクストからすると，あなたの言いたいことや，意見はこれこれということになりますが，これでよろしいですね」という，発話者の能動的な態度で相手の発話すべきことばを示して，相手を抱き込んで自分に都合のよい方向へことばを決めていく。この「これこれということ」は，話し手の視点からの希望的なことばではあるが，その土台には会話の流れから当然のこととしてでてくる相手の次に発話すべきことばでもあるので，相手の使うべきことばを先取り引用してそれを提示していることになる。

エコー発話は，対話相手の発話をエコーして，その内容を確かめたり，内容に同意を示したり，あるいはそれに特別の感情を示したりする機能を持つが，このエコーという点から見ると，誘導は相手のこれから言うべきことばをエコーしているともとれる。

誘導は，相手から肯定的な返事が返ってきて成功ということになるが，もちろん失敗に終わることも多々起こり得る。一例として法廷における弁護士と証人のことばのやりとりをとりあげてみる。

(1) 〈SIR WILFRID〉 She listened to the wireless, perhaps?
〈JANET〉 Aye, she listened to the wireless.
〈SIR WILFRID〉 She was fond of a talk on it, perhaps, or of a good play?
〈JANET〉 Yes, she liked a good play. (WFP)
(Wilfrid 卿（弁護士）：彼女はラジオかなんかを聞いていたというわけですね。
Janet（証人）：ええ，奥様はラジオを聞いていましたよ。
Wilfrid 卿（弁護士）：彼女はラジオの座談会やドラマなんかも好きだったというわけですね。
Janet（証人）：ええ，ドラマはお好きでしたよ。)

証人は，自分の「奥様」を殺した犯人として逮捕されている若者が，実際に奥様と会話をしているのをドア越しに耳にした，と証言する。これを弁護士は，その話し声は丁度ラジオで放送中であったドラマの男女の会話の可能性があるという方向にもっていく場面である。

先ずはラジオを聞くという一般的なことからはじめて，犯行日もラジオを聞いているという可能性のもと，ラジオ，それもドラマの番組を聞くという特定化の方向へと導き，さらにそこから証人が耳にしたのは丁度その時間帯放送されていたドラマの中の男女の声である，と誘導していく場面である。

この箇所を，「彼女はラジオかなんかを聞いていました」と，自分の言説を述べている文としてとることは適切ではない。ここは相手のことばとなりうるものを提示して，それを相手に認めさせようとしているものである。日本語では「彼女はラジオかなんかを聞いていたというわけですね」と，「という」が入ることにより，この文がメタ言語であるという指標が存在することになるが，英語では，メタ言語はいわゆる対象言語に織り込んで使用されることが多い。

2. メタ言語・対象言語

対象言語とメタ言語に関連して，次の2例を考えてみる。

(2) 'That's very important,' the King said. . . when the White Rabbit interrupted : 'Unimportant, your Majesty means, of course,' he said, in a very respectful tone, but frowning and making faces at him as he spoke.

'Unimportant, of course, I meant,' the King hastily said. . . (AAI)

White Rabbit は，King の言ったことばが適切ではないのでそれを修正しようと，〈Your Majesty means, of course, "Unimportant"〉のつもりで 'Unimportant, your Majesty means, of course.' と述べた。これを King は〈You should say, "Unimportant, I mean, of course."〉ととり，すでに過去のことなので，mean を meant と直して，'Unimportant, of course, I meant.' と繰り返した。2人の間でことば修正の範囲のとりかたが，つまりどの部分がメタ言語であるのかという点が，話し手と聞き手で結果的に異なってしまった場合である。メタ的なものが対象言語に織り込んで述べられるので，このようなギャップも生じやすくなる。

(3) 1. If anyone calls, you're not sure how long I'll be.

2. In case anybody comes, I'm out.

(3) 1の下線部は，誰かが電話をかけてきた時に相手が使うべき応答のことばを提示したものである。(3) 2の下線部は，パラフレーズすれば，In case anybody comes, just say, "The master is out." となる。これらはいわば，先取り引用といえるものである。相手が何らかの発言をすると予想される場合にそなえて，相手の発言用のことばを口述するのであるが，それを顕わに口述する形にせず，普通の陳述文の形に織り込んでいる。

この相手のことば遣いの修正であるとか先取り引用の用法は，当然のことながら相手にこのようなことばを使ってほしいと誘導するときのパターンとして使用されることが考えられる。相手が使うべきことばをある意味先取りしてエコーしているという点で，エコー発話の例ともなる。

3. エコー発話

エコー発話あるいはエコー表現（echo utterance）は，従来次のような例をさして使われる用語である。

(4) A : I didn't like that meal. B : You didn't LÍKE it?
A : The Browns are emigrating. B : Émigrating?
A : Switch the light off, please. B : Switch the LÍGHT off?
A : It cost five dollars. B : HÓW much did it cost?
A : I'm going to London for a holiday. B : To LÔNdon! That's not my idea of a rest.

(Quirk et al., 1985, pp.835-37)

Quirk et al. は，エコー発話は相手のことばの一部または全体を繰り返した発話であると説明し，最初の4例はエコー疑問文（echo question），最後の例はエコー感嘆文（echo exclamation）と呼ぶ。エコー疑問文の yes-no 型は，聞き手が自分の聞き取った相手の内容が正しいかどうかを確認するためのものであり，wh- 型は聞き手にとって，聞こえなかった，理解できなかった箇所を確めたり，あるいは相手の内容をさらに詳しく説明してくれるように頼むためのものである。また，エコー感嘆文も先行発話の一部あるいは全部を繰り返したものである。

ところが実際の対話では，これらの説明に収まらない例がしばしば見られる。たとえば次例では，対話相手のことばの一部をエコーしているが，これに疑問符も感嘆符も付加されておらず，従来のエコー発話には含まれない例文である。しかしエコーしていることにはかわりなく，基本的には相手の発話したことばを繰り返すことで，その確認を行うとともに，それを自分に言い聞かせているととれる。

(5) 〈Kate〉 What will you try to teach her first?

〈Annie〉 First, last, and－in between, language.

〈Kate〉 Language.

〈Annie〉 Language is to the mind more than light is to the eye. Dr. Howe said that.

〈Kate〉 Language. (TMW)

Dan Sperber and Deirdre Wilson (1981, pp.295-318) は，'echoic mention' という用語で次の(6) の例文を説明している。

(6) 1. a. I've got a toothache.

b. Oh, you've got a toothache. Open your mouth, and let's have a look.

2. a. Where can I buy pretzels at this time of night?

b. Where can you buy pretzels? At this time of night? At Barney's, of course.

3. a. I'm tired.

b. You're tired. And what do you think I am?

4. a. Doolittle : Listen here, Governor. You and me is men of the world, ain't we?

b. Higgins : Oh! Men of the world, are we? You'd better go, Mrs. Pearce.

5. It absolutely poured. I know, it was going to rain (you told me so). I should listen to you more often.

6. Jack elbowed Bill, and Bill punched him on the nose. He should have turned the other cheek (as it says in the Bible). Maybe that would have been the best thing to do.

7. a. I'm a reasonable man.

b. Whereas I'm not (is what you're implying).

8. You're going to do something silly. You're free to do what you want (you'll tell me). Maybe so. But you still ought to listen to me.

簡単にまとめると，例文 (6) 1-4 は，a で使われている命題が b の応答の中でそれとなく口にされたものである。これは b が先行の発話内容を誰かに伝えることを意図したものではなく，b の発話者は，先行発話が「聞かれた」，「理解された」ということを示唆するために，そしてそれに対するすぐさまの反応を示していることになる。例えば 3 では，b は a の発話を一旦認めた上で，相手にそれでは私の方はどうか，私の方も同じ状態ではないかと切り返している。

例文 5, 6 はすぐ前の発話ではなく，すでにあることばをエコーしたものである。5 はしばらく前の相手の発話をエコーした例で，エコーすることによって自分の反省を後続させる。

6はエコーされている源は聖書のなかということになる。

例文7のエコーされた命題は聞き手が先行発話の語用論的含意としてとったものである。例文8はいわゆる，何かを予想，予期したり，見越したりして，それをエコー（anticipatory echoes）した場合である。

これらの例文には，従来のエコー発話では取扱われない種類のエコー発話や，付加疑問文の一種である極性一致の付加疑問文（constant polarity tag question）も含まれる。4bはaの使ったことばそのもの（men of the world）を問題にして，相手の使ったことばは「とんでもない」という感情を顕わにする。

4. 極性一致の付加疑問文

極性一致の付加疑問文を，稲木（1990）は，先行発話と付加疑問文との関係や，付加疑問文とそれへの応答文との関係等，談話の流れの中で取り扱われる必要があると説明する。

付加部が対応する平叙文（reference clause）を 'RC'，付加部（tag）を 'T' とすると，極性一致の付加疑問文は，RC と T の極性が同じということになる。この形式は普通，肯定形で使用され，否定の場合の使用頻度は極端に少ないとされる。さらに RC には，先行発話と予想発話の2種がみられ，ともに極性一致の付加部が付くことで，その RC を問題にする。たとえば次例では，RC は前発言の一部を引用していて，そのことばそのものを問題にする。

(7)　Dr. Armstrong said, with a sigh of relief, "A disgraceful and heartless practical joke. I suppose."

The small, clear voice of Mr. Justice Wargrave murmured, "So you think it's a joke, do you?"

The doctor stared at him. "What else could it be?" (TLI)

Wargrave 判事は，Armstrong 医師のことばを問題にして，「貴方はいたずらだと思われるというわけですね。(それはおかしいですよ)」と相手にことばの打ち消しを期待する。ところが医師は，「いたずら以外に考えられない」と相手の期待を否認する。

ところが次の例文では，RC は先行発話には見当たらない。

(8)　Two people were standing looking down on a dead man. . . Slowly, very slowly, Vera Claythorne and Philip Lombard lifted their heads and looked into each other's eyes. . .

Lombard laughed. He said, "So that's it, is it, Vera?"

Vera said, "There's no one on the island－no one at all－except us two. . ." (TLI)

とある島に招待された11人の男女が次々と殺されていき，最後に残ったとされる3人のうちの一人が死体となって発見される。生き残っている Philip と Vera が死体を前にして交わす会話で，極性一致の付加疑問文が使われている。Philip は Vera に，「うんそうだ，それだといいたいのでしょう。（私（Philip）が犯人だといいたいのでしょう。がそれはおかしい。自分が犯人でないということはこの私が一番よく知っている。）」と言った。Philip は Vera の言いたいことばを推測して，「'That's it.' ということですね。」と発話する。この場合 RC は先行発話にはなく，相手のことばの先取り引用例となり，それを問題にする。

この極性一致の付加疑問文は，RC の肯定，否定と T の肯定，否定の片寄りが一致しないわけであるから，RC に対して疑問あるいは否定的なコメントをつけることになる。「私はあなたの発言，状況を受け止め解釈して，あなたの次に言いたいことばはこう（RC）であると推測するが，それでいいのですね。（でもそれはどうですかね。）」と，相手に確認すると同時に，相手を抱き込んでそのことばを決定しようと試みる，さらには，「それは，おかしい」という反論，疑問を呈するところまで可能な用法となる。

5. エコー発話と誘導

Sperber and Wilson の例文 6-8 は，従来のエコー発話には分類されない例であるが，これらは相手のことばになりうるものを推量してそれをエコーするといういわば予想型エコー発話として取り扱うことが可能である。

そうなるとこの予測型エコー発話の形式としては，平叙文あるいは平叙文に疑問符が付加された形式あるいは極性一致の付加疑問文が考えられる。ところが，極性一致の付加疑問文は RC に対して疑問，否定的な含意が込められるので，誘導という点から考えると，否定的な誘導内容が述べられることになる。相手の使うべきことばは予測できるものの，それはおかしいのであって，否定の方向へ相手を誘導することが話し手の意図となる。ということは，肯定的な誘導内容が表明されるデザインの一つとして，平叙文形式が残ることになる。

6. 事　　例

Agatha Christie の最高傑作の戯曲と言われている *The Witness for the Prosecution*（検察側の証人）は，展開の見事さと驚愕の結末で余りにも有名であるが，法廷場面の息詰まることばのやりとりに，ことばによる誘導デザインの有り様をみることができる。特に，弁護士と検事が，被告人や証人喚問において繰り広げる誘導合戦の展開に，英語による情報デザインの技法をみることができる。

(9) 〈SIR WILFRID〉 In your experience, when a burglar breaks in does he usually leave fingerprints or does he wear gloves?
〈INSPECTOR〉 He wears gloves.
〈SIR WILFRID〉 Invariably?
〈INSPECTOR〉 Almost invariably.
〈SIR WILFRID〉 So the absence of fingerprints in a case of robbery would hardly surprise you?
〈INSPECTOR〉 No, sir. (WFP)

Wilfrid 弁護士は警部の口から，強盗犯人が押し入る時には「必ず」手袋をはめている，ということばを引き出したい，さらに強盗事件で指紋が見つからなくても驚かない，ということばを誘導したい場面である。ここではこの誘導は成功し，警部はそれを両方とも認めている。この時のパターンとして，平叙文に疑問符が付いたものや，発話の文頭に 'so' が付加されたものが見られる。

(10) 〈SIR WILFRID〉 So the prisoner had a great influence over Miss French, and she had a great affection for him.
〈JANET〉 That was what it had come to. (WFP)

同様に弁護士が，Miss French（殺された女性）の家政婦である Janet に，「それでは，被告人は奥さんに非常に大きな影響力をもっており，奥さんの方も彼には惜しみなく愛情をそそいでいたというわけですね。」と，相手の使うべきことばを先取り引用し誘導していく場面で，相手を抱き込んでことばを決定しようと試みる。誘導喚問は効を奏し，家政婦の方は，「結果的に貴方の言われたことになってしまった。」と認める。

「あなたの（今までのことばや態度を受けとめ解釈して）次に言いたいことばはこうであると私は推測するが，これを当然のこととして，このことばを認めてください」という意味が込められることになる。「あなたのいいたいことであると私は解釈する」という点で話し手の視点が導入されたものになっているものの，あくまでも相手のことばが問題になる。この点はメタ言語であることを指す，'perhaps', 'so' 等が付加されていることからも明らかである。

相手のことばは明示的ではないので，無標的には，それを確かめるために 'S?' の形式が出てくるように考えられるが，'S.' と断定することにより，話し手の確信の強さを提示して，相手に認めさせようとする誘導の力が強く押し出されることもある。また相手もこれを認めざるをえない立場に追い込まれることになる。パラフレーズすれば，'You will say S./You

want to say S.' さらには 'You should say S.' となるであろう。

誘導文に対する応答としては，誘導文そのものの繰り返しや，さらに Yes や Of course 等の肯定辞が先行することもあるが，時には No の応答で誘導が失敗に終わることもある。

いくつかの例を追加して，誘導のデザインをみることにする。

(11)〈INSPECTOR〉 The glass outside was not consistent with the window having been forced from outside

〈MYERS〉 You mean that if it had been forced from the inside there had been an attempt to make it look as though it had been done from the outside?

〈SIR WILFRID〉 (Rising) I object. My learned friend is putting words into the witness's mouth. He really must observe the rules of evidence. (WFP)

(12)〈MYERS〉 Now, Inspector, you say the room had the appearance of a robbery having been committed?

〈SIR WILFRID〉 (Rising) That is just what the Inspector did not say. (To the JUDGE.) If your lordship remembers, that was a suggestion made by my friend－and quite improperly made－to which I objected. (WFP)

(11), (12) では，Myers 検事が証人相手に，'you mean. . .?', 'you say. . .?' と相手の発話である，と明示するような形で誘導喚問をするが，それを Wilfrid 弁護士は「異議あり」のことばで阻止する。Wilfrid 弁護士の「Myers 検事は自分のことばを証人の口から言わせようとしています」，あるいは「Myers 検事の言われたことばを警部は言っていません」という表現に，この箇所がメタ言語であるということが示されている。

(13)〈MYERS〉 I put it to you, you were pretty desperate for money?

〈LEONARD〉 Not desperate. I－well, I felt a bit worried.

〈MYERS〉 You were worried about money, you met a wealthy woman and you courted her acquaintance assiduously.

〈LEONARD〉 You make it sound all twisted. I tell you I liked her. (WFP)

検察側の被告人への喚問は続く。Myers 検事の誘導発話に，被告人の Leonard は相手のことばの一部を修正して，'desperate' ということばは適切ではなく，正確に表現すれば 'I felt a bit worried.' であると応答する。Myers 検事はこの最後のことばに後続すべきことばを提示する。このことばに対して，Leonard は，「随分ねじれた言い方をする」と，さらに相手

のことば遣いを問題にする。

(14)〈LEONARD〉 Oh, I don't know. She didn't like women, I don't think.
〈MYERS〉 She preferred, shall we say, personable young men? And you didn't insist on bringing your wife?.
〈LEONARD〉 No, of course I didn't. You see, she knew my wife was a foreigner and she −oh, I don't know, she seemed to think we didn't get on. (WFP)

(15)〈MYERS〉 I suggest that you knew that in a week's time you would have inherited a large sum of money from a trusting elderly lady.
〈LEONARD〉 I didn't know anything of the kind. (WFP)

(16)〈MYERS〉 So it was just a remarkable coincidence that Miss French should be killed, leaving you her heir, only a few days later.
〈LEONARD〉 I've told you − I didn't kill her. (WFP)

(17)〈MYERS〉 One would certainly think so − but the only person who did see you come home that night says it was at ten minutes past ten. And that person says that you had blood on your clothes.
〈LEONARD〉 I cut my wrist.
〈MYERS〉 A very easy thing to do in case any questions should arise.
〈LEONARD〉 (Breaking down) You twist everything. You twist everything I say. You make me sound like a different kind of person from what I am.
〈MYERS〉 You cut your wrist deliberately.
〈LEONARD〉 No, I didn't. I didn't do anything, but you make it all sound as though I did. I can hear it myself.
〈MYERS〉 You came home at ten past ten.
〈LEONARD〉 No, I didn't. You've got to believe me. You've got to believe me.
〈MYERS〉 You killed Emily French.
〈LEONARD〉 I didn't do it. (WFP)

例文（14-17）も検事の被告人喚問におけることばのやりとりである。検事は喚問の終わりの頃にはすべて平叙文で言い切ることで断定を続け，相手にことばの選択の余地がないことを示す。被告は当然全てを否定するものの，結局のところ検事に殺人者と決めつけられて

しまう。

7. おわりに

対話相手の発話の次にくるべきことばを提示して，誘導するということばのメタ的な用法の技法をみてきたが，いくつかのパターンにまとめることができる。

まずは例文（1）で見られたように，平叙文形式で提示された文が，話し手の言明とはならずに，相手のことばを提示しているメタ的な用法の場合である。このメタ的という点は 'perhaps' という語が付加されることでも示唆されている。

あるいは，例文（9）や（14）で前置される 'so' や 'and' が，自分のことばは，相手の先行発話から当然導き出されることばであるという含意を示唆している。また平叙文形式ではあるが疑問符が付加されて，発話の言い切りが弱められることもある。

メタ的な用法が，例文（11），（12），（13）では，'you mean', 'you say', 'I put it to you' 等で有標化されている。この場合誘導の発話行為は明らかとなるが，ここではこの誘導に反発することばが即飛び出している例である。

また例文（7）あるいは（8）で見られるように，極性一致の付加疑問文というパターンで，相手のことばになるものを予測する場合もある。

以上ここでは誘導に関する一技法を予測型エコー発話ととらえて，その有り様を推理小説の例文で考察した。

引用作品

AAW : *Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland.* Oxford University Press.

TLI : Agatha Christie, *Ten Little Indians.* Pocket Books.

TMW : William Gibson, *The Miracle Worker.* Asahi Press.

WFP : Agatha Christie, *Witness for the Prosecution.* Eihosha.

参考文献

荒木一雄・安井稔（編）. 1992.『現代英文法辞典』東京：三省堂.

Biber, D., S. Johansson, G. Leech, S. Conrad and E. Finegan. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English.* Essex : Pearson Education Ltd.

Huddleston, R. and G. K. Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language.* Cambridge : Cambridge University Press.

稲木昭子. 1990.「極性一致の付加疑問文――談話の流れの中で」.『言語研究』97 号. 73-94.

————. 1997.「エコー発話について」.『追手門学院大学文学部紀要』32 号. 61-72.

————. 2003.「謎解きのことば学——断定をさけるテクニック」『TAM 研究論集』第 7 号.

Leech, Geoffrey N., and Michael H. Short. 1981. *Style in Fiction,* London and New York : Longman Group Limited.（筧　壽雄監修. 2003.『小説の文体』東京：研究社.）

毛利可信. 1986.「アガサ・クリスティに英語を学ぶ　1-12」『翻訳の世界』

Näsblin, S. 1984. *The English Tag Question.* Stockholm : Almqvist & Wiksell International.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language.* London and New York : Longman Group Limited.

Simpson, Paul. 1997. *Language through Literature : an Introduction,* London and New York : Routledge.

————. 2004. *Stylistics : A resource book for students.* London and New York : Routledge.

Sperber, Dan and Deirdre Wilson. 1981. "Irony and the Use-Mention Distinction" in P. Cole (ed.), *Radical Pragmatics.* 295-318. Academic Press.

Tannen, Deborah. 1989. *Talking Voices.* Cambridge : Cambridge University Press.

Wales, Kate. 2001. *A Dictionary of Stylistics,* Second Edition. Edinburgh : Pearson Education Limited.